

事業名 CD	0104010213	健康診査事業（女性特有のがん検診推進事業）	
細分化した事業名			
事業担当課室 CD	200400	保健課	整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	誰もが安心して暮らせるまちづくり	
	中項目	健康な暮らしを守る保健・医療の充実	
	小項目	健康づくりの推進	
関連する個別計画等		根拠条例等	健康増進法、がん検診実施指針
関連する事業	がん検診事業		

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	女性特有のがんは、受診率が低いため受診促進を図り未来への投資に繋がる子育て支援の一環として平成21年度から実施
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	子宮がん：20歳・25歳・30歳・35歳・40歳の女性市民 乳がん：40歳・45歳・50歳・55歳・60歳の女性市民
これまでの改善経過	
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 ■市 ■委託 □補助金 ■その他（助成金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者個人に無料クーポン券の送付</li> <li>対象者は検診機関に無料クーポン券提出により受診が可能</li> <li>検診機関は月締めにより検診費用を市に請求 → 支払い</li> </ul>
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	早期発見、早期治療によるがん患者の抑制

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)		4,282	4,796
財源内訳	国庫支出金		4,071	2,020
	県支出金			
	市債			
	その他			
	一般財源		211	2,776
B	担当職員数(非常勤   職員 E) (人)		0.41	0.29
C	人件費(平均人件費 × E) (千円)		2,797	1,949
D	総事業費(A+C) (千円)		7,079	6,745
* 参考	H22)市民1人当りの事業コスト	211 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注 1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注 2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注 3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	子宮がん検診受診者	受診者数(人)		180	265
	乳がん検診受診者数	受診者数(人)		372	411
成果指標	子宮がん検診受診率	受診者数 265 人 / 対象者数 933 人		19.78	28.40
	乳がん検診受診率	受診者数 411 人 / 対象者数 1,090 人		33.76	37.71
効率指標	受診者 1 人あたりのコスト	総事業費 / 受診者数 (円) (6,745 千円 / 676 人)		12,824	9,979

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 対象者個人宛に検診通知、無料クーポン、検診手帳を郵送		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない 目標受診率 40% に達成できなかったものの、子宮がん 8.62 ポイント増、乳がん 3.95 ポイント増となった。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 事業開始 2 年目となりある程度スムーズな事務作業によりコストを抑えることができた。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化 (コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善 (実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化 (結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化 (事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合 (他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 昨年、外部評価委員から「国の事業を私たちが評価するのかわ？」との意見あり。せいせい検診の手法、PR の工夫程度の意見。	(2) 24 年度 現行どおり	(3) 23 年度 現行どおり 乳がん検診については、総合健診との同時実施を委託検診機関と検討したが、会場スペース (検診バス)、他市町村との調整難から現行どおりとする。
	22 年度の改善計画		
22 年度の改善結果			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) NPO 法人 J.POSH (日本乳がんピンクリボン運動) がメディアを通じた PR 等の検診促進を行っており、その活動も受診率増につながっていると思われる。			
課長所見	乳がん検診は毎年受診率は向上しているが、子宮がん検診の受診率はまだまだ低いので、検診の重要性や受診環境の工夫などが必要		